

討論の時間が十分に取れず、参加者の皆さんにとっては言い足りなかったことと思います。実行委員の不手際をお詫びいたします。

(フォーラム実行委員 縣 秀彦, 鈴木文二, 祖父江義明, 山縣朋彦)

寄贈図書リスト

知られざるジャパノロジストローエルの生涯一, 宮崎正明, 丸善, 読み物, 新書版, 245 p, 680 円

岩波講座・現代の物理学「宇宙物理」, 佐藤文隆, 岩波書店, 教科書, A5判, 272 p, 3,200 円
宇宙の発見, ジェームス・コーネル編, 並木雅俊訳, 丸善, 解説書, B6, 317 p, 1,800 円

月報だより

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1)着任時期, (2)任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1)提出先, (2)問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

A. 国立天文台 COE 研究員及び研究員公募

今年度より国立天文台に非常勤講師の身分・給与による「COE 研究員」の制度が新設されました (定員7名)。これに伴い, 従来の「国立天文台研究員」については「研究員」と呼ぶこととし, 待遇・定員はそのままとします。今年度は「COE 研究員」の初年度にあたるため, 下記の通り両研究員について並行して公募を行います。なお両研究員は独立した制度ですから, 併願や他制度への移行は差し支えありません。

A-1. COE 研究員公募

1. 研究者7名
2-4. 以下に募集する各分野, 人員, 職務内容及び勤務地を掲げる。

宇宙電波分野(3名程度): ミリ波干渉計用の超広帯域相関器の開発, 45m ミリ波望遠鏡用の大型マルチビーム超伝導受信機の開発, 45m 望遠鏡と干渉計を結ぶレインボウ計画などミリ波・サブミリ波観測性能の高度化プロジェクトに従事し, 電波天文分野における先進的な観測研究を推進する。勤務地は野辺山。

VLBI 分野(1名程度): VSOP, 国内 VLBI 等のプロジェクトに従事し, 活動銀河核・星形成領域や星周領域のメーザー源などの観測・研究を推進する。勤務

地は主として三鷹。

すばるプロジェクト(1名程度): 建設中の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のプロジェクトに従事し, 各種の技術開発・試験・観測・研究を推進する。勤務地は当面は三鷹あるいは岡山, 将来はハワイもあり得る。

一般分野(2名程度): 以下の分野においてそれぞれのプロジェクトに従事しつつ研究を推進する

(カッコ内はプロジェクト)。

データ解析計算センター (地上観測データを中心とした総合的天文データベースの構築); 勤務地は三鷹。

理論天文学(大規模天文シミュレーション等); 勤務地は三鷹。

太陽物理学 (「ようこう」衛星, 太陽フレア望遠鏡等); 勤務地は三鷹。

位置天文・天体力学(重力レンズによる位置天文, 重力波関連の技術開発); 勤務地は三鷹。

地球回転(地上 VLBI 統一計画, 月面 VLBI 等); 勤務地は水沢。

太陽電波 (電波ヘリオグラフ); 勤務地は野辺山。

5. (1)決定後可能な限り早い時期
(2)原則として2年
(特別の事情ある時は1年延長を可とする)
6. 博士の学位を取得または取得見込みのもので, 平成7年4月1日現在35歳未満のもの
7. 履歴書, 研究歴・研究業績概略, 論文リスト(共著の論文については本人の役割を明記のこと), 主要論文別刷, 研究計画 (希望の分野・プロジェクトを明記のこと), 推薦書 (あれば)。
8. 提出期限: 6月30日 (当日消印有効)
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(2)海部宣男
(国立天文台・三鷹, TEL 0422-34-3610)
10. 封筒に「COE 研究員応募書類」と朱書のこと。
別に公募する「国立天文台研究員」に, 併せて応募することは差し支えない。
11. その他: 非常勤講師としての待遇, 給与(月額30万

円程度)を供する。

A-2. 研究員公募

1. 研究者(数名)
- 2-4. 国立天文台において開発,観測,研究等に積極的に取り組み,先進的な研究を推進する若手研究者を求める。以下に分野,及び勤務地を掲げる。
 - ・電波天文学分野:勤務地は野辺山。
 - ・光学赤外線天文学分野:勤務地は当面は三鷹あるいは岡山,将来ハワイもあり得る。
 - ・一般分野:国立天文台の各分野においてそれぞれの研究を推進する。勤務地は分野による(詳しくは問い合わせのこと)。
5. (1)決定後可能な限り早い時期。
(2)原則として2年
(特別の事情ある時は1年延長を可とする)。
6. 大学院修士課程修了または同等以上の学力を持つ者。
7. 履歴書,研究歴・研究業績概略,論文リスト(共著の論文については本人の役割を明記のこと),主要論文別刷,研究計画(希望の分野・勤務地・受入れ教官名(予定)を明記のこと),推薦書(あれば)。
8. 提出期限:6月30日(当日消印有効)
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(2)海部宣男
(国立天文台・三鷹,TEL 0422-34-3610)
10. 封筒に「研究員応募書類」と朱書のこと。
別に公募する「国立天文台COE研究員」に,併せて応募することは差し支えない。
11. 教務補佐員としての給与を支給する(詳細は上記に問い合わせのこと)。

B. 国立天文台太陽物理学研究系教官公募

1. 教授 1名
2. (1)太陽物理学研究系・太陽活動部門
(2)東京都三鷹市
3. 太陽物理学
4. 太陽物理学研究系では,地上・スペースからの太陽観測,及び理論的研究を行っており,さらに将来の観測装置として,新たな太陽観測衛星および太陽周期活動望遠鏡を計画しています。これらの研究活動に積極的に参加し,特にスペースからの太陽観測・研究推進の中心となって指導的な役割を果たす教授を求めます。
5. (1)決定後なるべく早い時期

6. 大学院博士課程修了,またはそれと同等以上の方。
7. (1)履歴書,(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む),(3)論文リスト及び主要論文の別刷,(4)研究計画書,(5)本人について意見を述べられる人2人の氏名と連絡先。他薦の場合は,(1)-(4)がわかるような推薦書。
8. 応募締切:平成7年7月31日(月)必着
9. (1)〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(2)国立天文台太陽物理学研究系主幹 桜井隆
TEL 0422-34-3716
10. 封筒の表に「太陽物理人事応募書類在中」と朱書し,簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。なお,外国籍の方は,法令に基づいて任期を定める場合があります。

C. 国立天文台教官公募

1. 教授 1名
2. (1)大型光学赤外線望遠鏡計画推進部
(2)当面,東京都三鷹市(将来はハワイ勤務もありうる)
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
大型光学赤外線望遠鏡計画推進部は,光学赤外線天文学研究系,天文機器開発実験センターと共に,ハワイに設置する「すばる」望遠鏡の建設を推進しています。観測装置,画像データ処理等の分野を中心に,全体的視野のもとに「すばる」望遠鏡計画を推進し,観測的研究に強い意欲を持って指導的な役割を果たす教授を求めます。
5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了,またはそれと同等以上の方
7. (1)略歴書,(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む),(3)研究論文リスト,及び主要論文別刷,(4)研究計画書,(5)本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先。
8. 締切:1995年7月31日必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2)〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台大型光学赤外線望遠鏡計画推進部主幹 家 正則 TEL 0422-34-3703
10. 封筒の表に「望遠鏡計画推進部教授人事応募書類在中」と朱記し,簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。なお,外国籍の方の場合,法令に基づいて任期を定める場合があります。

D. 国立天文台教官公募

1. 助教授 1 名および助手 1 名
2. (1)大型光学赤外線望遠鏡計画推進部
(2)当面、東京都三鷹市(将来はハワイ勤務もありうる)
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
大型光学赤外線望遠鏡計画推進部は、光学赤外線天文学研究系、天文機器開発実験センターと共に、ハワイに設置する「すばる」望遠鏡の建設を推進しています。「すばる」望遠鏡計画の推進と観測的研究に強い意欲を持って、天体画像処理システム、制御ソフトの開発、観測装置の開発・製作等の分野で、総括的な役割を果たす助教授 1 名、および責任を分担する若手研究者 1 名を求めます。
5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 助教授は大学院博士課程修了、助手は大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1)略歴書、(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3)研究論文リスト、及び主要論文別刷、(4)研究計画書(希望職種を明記のこと)、(5)本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6)他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)―(5)の概要がわかる書類
8. 締切：1995 年 7 月 31 日 必着
9. (1)〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2)〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台大型光学赤外線望遠鏡計画推進部主幹家 正則 TEL 0422-34-3703
10. 封筒の表に「望遠鏡計画推進部助教授人事応募書類在中」、または「望遠鏡計画推進部助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。
なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

E. 国立天文台教官公募

1. 助手 1 名
2. (1)天文機器開発実験センター
(2)当面、東京都三鷹市(将来はハワイ勤務もありうる)
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
天文機器開発実験センターは、天文観測に関する開発研究を行っていますが、中でも大型光学赤外線望遠鏡計画推進部、光学赤外線天文学研究系と協力して、「すばる」望遠鏡に関連した開発研究に力を注いでいま

す。光赤外検出器の開発、観測装置の開発等で天文学に関する開発研究を積極的に進め、観測的研究を意欲を持って行おうとする若手研究者を求めます。

5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1)略歴書、(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3)研究論文リスト、及び主要論文別刷、(4)研究計画書、(5)本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6)他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)―(5)の概要がわかる書類。
8. 締切：1995 年 7 月 31 日 必着
9. (1)〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2)〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台天文機器開発実験センター長 小林行泰 TEL 0422-34-3865
10. 封筒の表に「開発実験センター助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

平成 8 年度国立天文台

外国人客員教授候補者の推薦について

下記により平成 8 年度国立天文台外国人客員教授候補者の推薦を募集しますので、ご推薦願います。

1. 国立天文台所属の受入れ責任者を通じての応募に限ります。
2. 公募分野は、以下の 4 部門です。
 - 1) 光学赤外観測(光学赤外線天文学研究系)
 - 2) 天体物理基礎理論(理論天文学研究系)
 - 3) 電波天文観測(電波天文学研究系)
 - 4) 地球力学(地球回転研究系)
3. 推薦される候補者がある場合は、受入れ責任者とご相談の上、所定の申請書を作成し、関連資料(略歴等・論文リスト)を添えて、9 月 18 日(月)までに管理部庶務課共同利用係あてご提出ください。申請書書式その他については、共同利用係にお問い合わせください。(電話：0422-34-3660)

国立天文台長 小平桂一

理化学研究所計算科学研究室研究員

1. 研究員 1 名
2. (a)理化学研究所, 計算科学研究室
(b) 351-01 和光市広沢 2-1
3. 計算科学
4. 計算科学研究室は 1995 年度から新設された研究室である。理化学研究所に導入済みのベクトルパラレル型スーパーコンピュータ富士通 VPP-500 を使って、大規模シミュレーションを実施するとともに、大規模並列化アルゴリズムを開発する。また、いくつかの重要な計算科学の分野において、超高性能の専用計算機を開発する。採用者にはこれらの計算科学研究室の活動の中心となって働いて頂く。候補者は計算機のハードとソフト両方に造詣が深く、大規模数値シミュレーションの経験があることが望ましい。これまで活動してきた分野は問わない。
5. 本研究所の給与規定による。
6. (a) 1995 年 10 月 1 日以降の所定の日
(b) なし
7. 博士の学位を有するか、採用までに取得予定の方。1995 年 8 月 1 日の時点で満 35 歳以下であること。
8. ○履歴書 ○業績リスト ○推薦書 2 通 ○主要論文別刷 ○着任後の研究計画案と抱負 (2000 字程度)
9. 1995 年 7 月 8 日(土)必着
10. (a) 351-01 和光市広沢 2-1
理化学研究所計算科学研究室 戎崎俊一
電話 046-462-1111 内線 3631
FAX 048-462-4654
(b) 東京大学教養学部 宇宙地球科学教室
戎崎俊一 電話 03-5454-6611
FAX 03-3465-3925
11. 封筒に「計算科学研究室研究員応募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。

研究助成

平成 7 年度 (第 12 回) 井上學術賞候補募集について

井上科学振興財団より本会あて下記要項で推薦依頼がありました。希望者は天文学会までご連絡下さい

(学会締切は 8 月 21 日(月))

1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で業績が特に顕著なもの。ただし、研究者の年齢が平成 7 年 9 月 20 日現在で満 50 歳未満のものに限る。

2. 学術賞

賞状・メダル及び副賞 200 万円, 5 件以内。受賞者は原則として 1 件について一人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。ただしその場合も 1 件とする。

学会からの推薦件数は 1 件です。

贈呈期日は平成 8 年 2 月 2 日(金)の予定。

1995 年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「研究助成」について

日本天文学会へ、標記の「賞」および「研究助成」の推薦依頼がまいりましたのでお知らせ致します。

三宅賞

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金 (30 万円) をそえます。
3. 本賞の贈呈は 1 年 1 件 (1 名) とします。
4. 規定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究科目, 推薦理由 (400 字程度), 主な論文 10 編程度に略歴をそえて, 協会事務所までお送り下さい。

研究助成

1. 研究助成は地球科学の研究者で、海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者、ならびに海外における学術調査研究などに参加する者に対して行われます。
2. 助成金は 1 件 10 万円とし、年に 3 件とします。
3. 規定の用紙に推薦候補者(各締切日において満 40 才迄とする)のシンポジウム出席については略歴, 研究業績, 国際会議名(主催団体, 開催場所, 開催年月日), 論文題目, 推薦理由等を海外学術調査に関しては, 略歴, 研究業績, 調査地(国名, 地域名), 調査目的・計画, 推薦理由, 同行者などを記入して協会事務所までお送り下さい。

三宅賞の贈呈および研究助成者の発表は、1995 年 12 月 2 日(土), 東京で行います。

学会締切日: 三宅賞は、1995 年 7 月 31 日, 研究助成は、第 1 回締切 1995 年 7 月 31 日, 第 2 回締切 1995 年 12 月 15 日。

申込用紙は天文学会事務局に用意してあります。

地球化学研究協会

〒166 東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217

電話 03-3330-2455 (FAX 兼用)

インドネシアとの交流について

インドネシアとの天文学の分野における交流は、小暮先生, Hidayat さんを中心に話が進められ、日本学術振興

会と、インドネシア DGHE との間に協定が結ばれ、1979年より、両国から毎年数名ずつ、訪問し合うという形を取ってきた。学振の地域交流課のもとに3カ年ごとに計画がつけられ、コーディネーターが訪問する人物を選び、その計画を学振に提出することで、交流が進められてきた。コーディネーターは1985年に小暮先生より、石田先生に代わり、昨年4月からは、私が務めている。

計画は3年ごとに更新であったが、いつも学振の方から続けて下さいと言われてきたとのことであったので、安心してた。今年3月で、今回の3カ年計画が切れるので更新の手続きなどを、昨年9月に学振に尋ねたが、これからは一般交流方式を見直しているという話であった。それから何回か電話で様子を探したが、もう一つ要領を得ないので、昨年12月に学振を訪れ、直接話を聞いてみた。するとこれからは公募にするとということであった。そのときは3カ年計画を公募するものと理解していたが、2月末に学振の高石事業部長より電話があり、これまでのコーディネーターを通じて交流する形式を止め、訪問希望者が直接応募すると言ったことであった。ただし、インドネシアではどのような形式をとるかはよく分かっていない。

その後、正式の書類が学振より送られてきた。その、概要は次の通りである。

1. 対象分野

人文・社会・自然科学の全分野

2. 対象国

タイ、インドネシア、フィリピン、及びマレーシア

3. 交流枠

平成6年度の対象国別交流枠を基本として、対応機関と協議の上、年度ごとの対象国別交流枠を決定する。

4. 派遣手続き

派遣側の実施機関（日本においては振興会）が派遣研究者を決定し、相手側の実施機関に対してノミネートを行う。日本側においては公募を行い、選考の上派遣研究者を決定する。なお、研究者は申請に当たっては、ホストサイエンティストの受け入れの承諾を予め得た上で申請を行う必要がある。

5. 日本側の募集の時期

平成7年度については、おおむね5月に募集を行う予定であるが、平成8年度以降は前年度に募集を行い、派遣研究者を決定する予定である。

6. 交流に必要な経費

基本的に、従来の待遇と同じ条件で、日本学術振興会が国際航空賃、滞在費等交流に必要な経費を負担する。

要するに、特定の分野におけるコーディネーターの調整による実施という従来の交流の方法を改めて、全分野

を交流の対象とし、少なくとも日本人研究者の派遣については公募によって派遣を行うという方法で実施することである。詳しくは、日本学術振興会地域交流課に問い合わせられたい。
稲垣省五

研究会・集案案内

国立天文台水沢観測センター施設公開のお知らせ

期日：平成7年6月10日(土)午前10時から午後4時まで
場所：岩手県水沢市星が丘町2-12

国立天文台水沢観測センター

電話 0197-22-7111

メインテーマ：銀河の中心、地球の中心

公開施設：10mアンテナ、重力絶対測定室、コンピュータ室、木村記念館等

講演会：VLBIでブラックホールを見る (三好 真)
南極の自然とそこでの観測 (佐藤忠弘)

「屋外照明と夜空の明るさ」公開シンポジウム開催のお知らせ

国際天文学連合 (IAU) 天体観測環境保全委員会では CIE TC 4-21「天体観測に対する屋外照明の影響」委員会と協力して、野外照明の適性化によって、エネルギーの無駄をなくすばかりでなく、星空の見える夜空の環境維持について検討しております。この一環としてインド、韓国などの代表を招き、標題の公開シンポジウムを下記のように開催しますので、お知らせいたします。

なお、出席ご希望の方、コメント発表ご希望の方は、往復ハガキで、国立天文台磯部瑠三 (〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1) までお申し込み下さるようお願いいたします。

1. 開催日時：1995年7月16日(日)午前10時30分～午後4時30分

2. 場 所：電力館 (8階) TEPCO ホール (東京・渋谷駅徒歩5分)

3. 定 員：100名 (定員になりしだい締切)

4. 参加費：無料

プログラム：光害の現状の概観 磯部瑠三
(暫定) 外国の夜空の背景光観測

韓国 (英語発表) 韓国代表

インド (英語発表) インド代表

環境庁の試み 香西洋樹

名古屋の試み 鈴木雅夫

星空を守る会の活動 古在由秀

照明学会夜間景観照明委員会の活動等 交渉中

IAU 天体観測環境保全委員会の考え方 磯部瑠三

コメント 申込み者

討論

5. 主催：国際天文学連合天体観測環境保全委員会
 アジア太平洋地区天文教育委員会
 共催：(社)照明学会 (社)日本照明委員会
 後援：環境庁* 国立天文台* 日本天文学会
 *印は交渉中

日時：1995年9月20日(水) 13:00~17:00

21日(木) 9:00~17:00 (講演会終了後に懇親会を行います。)

22日(金) 9:00~17:00

場所：日本女子大学目白キャンパス (東京都文京区目白台2-8-1, JR 目白駅から徒歩20分, バス：目白駅から学バスまたは新宿西口行で日本女子大前下車)

主催：日本光学会 (応用物理学会)

共催：応用物理学会光波センシング技術研究会, 同新画像システム研究会, 応用光学懇談会

協賛(依頼中)：画像電子学会, 計測自動制御学会, 情報処理学会, 照明学会, 精密工学会, テレビジョン学会, 電子情報通信学会, 日本機械学会, 日本写真学会, 日本色彩学会, 日本天文学会, 日本分光学会, 日本非破壊検査協会, 日本物理学会, レーザー学会, (社)日本オプトメカトロニクス協会, (財)光産業技術振興協会

講演申込についての詳細は下記にお問い合わせ下さい。

徳島大学工学部光応用工学科

西田 信夫

TEL 0886-56-9425 FAX 0886-56-9632

光学連合シンポジウム東京'95 講演募集
 (JAPAN OPTICS '95)

日本光学会では、第5回の光学連合シンポジウムを東京で開催することになりました。この連合シンポジウムは、京都'92から一般講演を中心とした日本光学会の学術講演会として発足しました。光学および光技術に関連した、新たな研究成果を広い分野から募って発表頂き、十分なディスカッションを行い、光学および光学技術の新しい発信源となるようにしたいと考えております。なお、今回は特別講演および「量子エレクトロニクス、半導体レーザーの新展開、微小領域光学と近接場効果」に関するスペシャルセッションを開催する予定です。各方面から多数の方が参加される学際的なシンポジウムとなりますよう、奮ってご応募下さい。

星空市場

「シューメーカー・レビー第9彗星木星衝突CG」
 を天文学会から頒布いたします。

1994年7月、シューメーカー・レビー第9彗星が木星に衝突しました。この注目すべき太陽系天体の衝突は、世界中の人々に大きな関心呼びました。

このCGビデオは、SL9彗星の軌道運動を可視化したものです。約100年前からの軌道を計算し、1994年7月の衝突までを最新のコンピューターグラフィックス技術で表現しています。約8分の映像の中で様々な視点からの軌道運動をCGの可能性を駆使して表現しました。

また映像と音楽を中心に、驚異の天体現象を感じとっていただけるようにも配慮しました。音楽はステレオで鑑賞していただくと、より効果的です。

このビデオは、この驚異の天体現象を多くの市民にわかりやすく解説するのに使われました。また、同時に同様な目的でTV番組でも多く使われました。今後も、こ

の映像が、天文や宇宙科学の教育に活用され、より多くの人々の宇宙への興味と関心を喚起できることを願って、このビデオを頒布いたします。

「シューメーカーレビー第9彗星木星衝突CG」

VHS 8分 データブック付 (日本語英語併記)

頒布価格：2,800円 送料：310円

問合せ・申込：日本天文学会

作成：THE ZAKKYO PROJECT

日本天文学会推薦 NICOGRAPH'94 入選

第36回科学技術映像祭 科学技術庁長官賞受賞

計 報

本会特別会員 加藤龍司氏には、去る4月5日午前3時、宇都宮済生会病院にて逝去されました。

(享年43歳)

謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせいたします。

編集委員 谷川清隆 (編集長), 坂尾太郎, 田代 信, 中川貴雄, 中村 士, 濱部 勝, 林 左絵子, 半田利弘
 平成7年5月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
 定価700円(本体680円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 電話 (0422)31-1359 (FAX自動切換) 振替口座 東京 6-13595